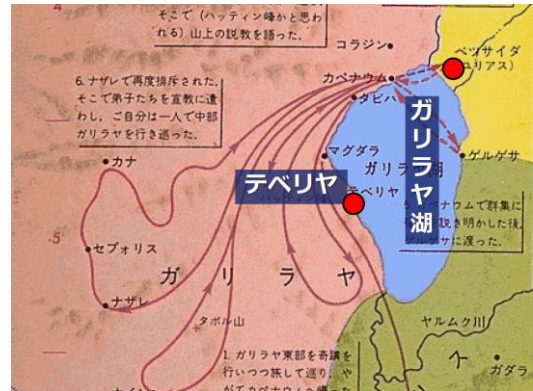


「五千人の給食」

ヨハネ 6:1~15

場面はエルサレムから再びガリラヤ地方に移ります。イエシュアが行われた数々の奇蹟の中でも特に有名な「五千人の給食」と呼ばれる出来事が描かれています。この出来事はイエシュアが行われた数々の奇蹟の中で唯一、マタイ、マルコ、ルカそしてこのヨハネの、四つの福音書すべてに記されている出来事です。ですからそれだけ重要なメッセージを持っていると考えるべきです。



1. その後

6:1 その後、イエスはガリラヤの湖、すなわち、テベリヤの湖の向こう岸へ行かれた。

「その後」という言葉に注目してみたいと思います。それはつまりイエシュアは前述の5章で、神の子としてのご自分についてのいくつかの「証言」をなさいました。その証言を簡単に説明するようになります。

- ①モーセによって書かれた律法が、イエシュアを証言している。(5:46)
- ②御父が御子イエシュアの証人であり、イエシュアもまたご自身についての証言者である。(5:30~31)
- ③イエシュアは、ヨハネの証言よりもすぐれた証言である「わざ」によって証言する。(5:36)

この「証言」をされて「その後」にということになります。ですから5章で語られたイエシュアの「証言」を踏まえた、これに繋がる出来事が、6章に記されていると考えられます。これらの事実を踏まえた上で、この「五千人の給食」に隠された意味を考えてみたいと思います。

2. 主の家の山

6:2 大ぜいの人の群れがイエスにつき従っていた。それはイエスが病人たちになさっていたしを見たからである。

6:3 イエスは山に登り、弟子たちとともにそこにすわられた。

イエシュアは大勢の人々を引き連れ、そして弟子たちとともに山に登られました。これがどこの山であるかは記されていません。ですから「山に登り」そこに「すわる、とどまる」という行為に意味があると考えられます。山に登るという行為は「神様に会う、近づく」ことを目的として聖書にいくつかの記述があります。モリヤの山に登ったアブラハムとイサク、シナイ山に登ったモーセ、ホレブの山のエリヤなどがその例として挙げられますが、ここでは文脈的に見て明らかにモーセを指し示しています。「大勢の人の群れ」を引き連れている様子からも、エジプトから解放したイスラエルの民を引き連れていたモーセを連想させます。そして更に

モーセの時代の出来事を想起させる記述が次に記されています。

3. 過ぎ越し

6:4 さて、ユダヤ人の祭りである過越が間近になっていた。

この過ぎ越しの祭りは、神様からモーセによってイスラエル人に命じられた祭りです。このように、イエシュアについての記述の中にモーセを連想させ、5:46の「モーセが書いたのはわたしのことだからです」というメッセージをより強調しようとしているイエシュアの意図が感じられます。

4. 200 デナリ

6:5 イエスは目を上げて、大ぜいの人の群れがご自分のほうに来るのを見て、ピリポに言われた。「どこからパンを買って来て、この人々に食べさせようか。」

6:6 もっとも、イエスは、ピリポをためしてこう言われたのであった。イエスは、ご自分では、しようとしていることを知っておられたからである。

6:7 ピリポはイエスに答えた。「めいめいが少しずつ取るにしても、二百デナリのパンでは足りません。」イエシュアはこれからしようとしていることを知っておられた、つまりご計画を持っておられました。これに対してピリポは「200 デナリ（200 日分の給料）のパンがあっても足りない」という結論を出しました。なぜここでピリポは「200」デナリと言ったのでしょうか。色々な説が考えられますが、聖書の中に 200 という数字にまつわるいくつかのエピソードがあります。

士師記

17:4 しかし彼は母にその銀を返した。そこで母は銀二百枚を取って、それを銀細工人に与えた。すると、彼はそれで彫像と鑄像を造った。それがミカの家にあった。

この箇所から考えられるのは、200 は彫像と鑄造、つまり偶像の神々を指し示しているということです。つまり偶像、人間や人間が作った神々では「足りない」、成し遂げることができないということです。次にこのような記述もあります。

I サムエル

18:27 ダビデは立って、彼と部下とで、出て行き、ペリシテ人二百人を打ち殺し、その陽の皮を持ち帰り、王の婿になるためのことを、王に果たした。そこでサウルは娘ミカルを妻としてダビデに与えた。

200 はペリシテ人、すなわちイスラエルの敵を指し示していると考えられます。イスラエル、ユダヤ人に敵対するような、イスラエル、ユダヤ人を無き者とする、ないがしろにするような考え方では、成し遂げられないということです。またこのような記述もあります。

II サムエル

14:26 彼（アブシャロム）が頭を刈るとき、——毎年、年の終わりには、それが重いので刈っていた——その髪の毛を量ると、王のはかりで二百シェケルもあった。

そして 200 はダビデの子アブシャロムに象徴される「偽メシア、反キリスト」を指し示しているということです。アブシャロムの頭、頭は考え、計画を持つ機関です。イスラエルを騙し、自分が王になろうと企んだアブシャロム的な考え方、計画では、成し遂げることはできないということです。ちなみに「頭」を象ったヘブル文字レーシュ(ר)には、200 という数字が宛がわれています。

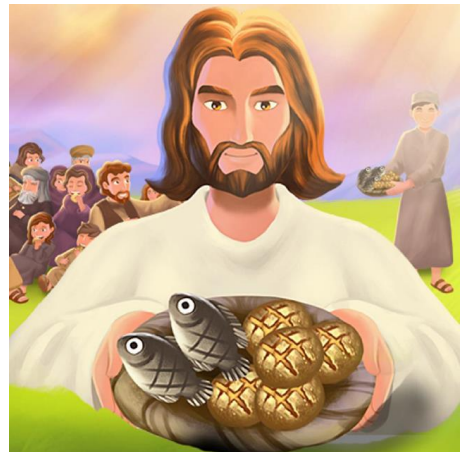
このように、偶像の神々や反ユダヤ主義、反キリストでは神様のご計画に対抗するには「足りない」、太刀打ちできないことがこの 200 という数字にこめられていると考えられます。イエシュアがしようとしておられた、知っておられたことだけが唯一、神様のご計画を実現させるに足るものなのです。

5. 五つのパンと二匹の魚

6:8 弟子のひとりシモン・ペテロの兄弟アンデレがイエスに言った。

6:9 「ここに少年が大麥のパンを五つと小さい魚を二匹持っています。しかし、こんなに大ぜいの人々では、それが何になりましょう。」

なぜ少年は大麥のパンを 5 つ、小さい魚を 2 匹持っていたのでしょうか。これも様々な説が存在しますが、ここでは文脈に沿った形で解釈してみたいと思います。先ほどの 6:1 で「その後」に注目して、前述のイエシュアについての「証言」を踏まえての出来事と考えるならば、この 5 つのパンと 2 匹の魚は、それになんらかの繋がりがあると考えられます。



まず 5 つのパンですが、パンは神様の御言葉を指していると考えられます。

申命記

8:3 それで主は、あなたを苦しめ、飢えさせて、あなたも知らず、あなたの先祖たちも知らなかったマナを食べさせられた。それは、人はパンだけで生きるのではない、人は主の口から出るすべてのもので生きる、ということ、あなたにわからせるためであった。

つまり 5 つのパンは 5 つの御言葉です。そしてその 5 つの御言葉とは、イエシュアについての「証言」によれば「モーセ」によって書かれたものです。モーセによって書かれ、かつユダヤ人の律法、ヘブル語でトーラー(תּוֹרָה)と呼ばれる書は、「創世記」「出エジプト記」「レビ記」「民数記」「申命記」の 5 つです。モーセ五書とも呼ばれるこの 5 つの御言葉が、イエシュアを証言していることがこの 5 つのパンに示されていると考えられ、「モーセが書いたのはわたしのことだからです。」という 5:46 の御言葉が、たとえとしてここに表さ

れていると考えるならば、文脈としての繋がりが見えてきます。

これは少し余談になりますが、ダビデがゴリヤテと戦った時、武器として拾った石も「五つ」でした。しかし実際にゴリヤテを倒したのは「一つ」の石だけでした。これも同じような意味を持っていると思われます。すなわちモーセが書いた「五つ」の書は、「一つ」のことについて書かれている。モーセが書いたことは、イエシュアによって成就する、成し遂げられるという意味がそこには隠されていると考えられます。

さて、次に2匹の魚ですが、ギリシャ語の直訳では「調理したちょっとしたもの」となっており、おそらく魚であっただろうということです。ですから注目すべき点は、魚よりもむしろ2という数にあります。「証言」において2という数は重要です。

申命記

19:15 どんな咎でも、どんな罪でも、すべて人が犯した罪は、ひとりの証人によっては立証されない。ふたりの証人の証言、または三人の証人の証言によって、そのことは立証されなければならない。

どんな証言でも、ふたり以上の証人がいればその証言は真実であるとされていました。つまりこの2匹の魚は、証言の立証に必要な、ふたりの証人の証言を指し示していると考えられます。その証言者とは、5章からの関連性で見ると「御父」と「御子イエシュア」ご自身を指し示していると考えられます。

そして5:36で語られた「ヨハネの証言よりもすぐれた証言」である「わざ」によって、男だけでも5千人ということですから、女性や子どもを合わせると相当な数の人々を満腹にさせるという奇蹟を起こされました。このように、五つのパンと二匹の魚による五千人の給食の奇蹟は、前述のイエシュアについての証言を見えるものにたとえた形で表されていると考えられます。

- ①モーセによって書かれた律法が、イエシュアを証言している。(5:46)
- ②御父が御子イエシュアの証人であり、イエシュアもまたご自身についての証言者である。(5:30~31)
- ③イエシュアは、ヨハネの証言よりもすぐれた証言である「わざ」によって証言する。(5:36)



- ①五つのパン…モーセ五書（創世記、出エジプト記、レビ記、民数記、申命記）→ 律法
- ②二匹の魚…ふたりの証人 → 御父の証言と御子の証言
- ③五千人の給食の奇蹟

このように、文脈としての繋がりで聖書を解釈していくならば、聖書は決して多くのことを語っているのではなく、同じメッセージを何度も言い換え、強調しているように見えます。

6. 詩篇 23 篇

6:10 イエスは言われた。「人々をすわらせなさい。」その場所には草が多かった。そこで男たちはすわった。その数はおよそ五千人であった。

この場所には青々とした草が多かったと記されています。そしてここはガリラヤ湖のほとりです。詩篇 23 篇にこう記されています。

詩篇

23:1 主は私の羊飼い。私は、乏しいことはありません。

23:2 主は私を緑の牧場に伏させ、いこいの水のほとりに伴われます。

「乏しいことはありません」まさにイエシュアは人々を養われました。そして緑の牧場、水のほとりに導かれる方、この詩篇 23 篇に歌われている主であることを示されたと考えられます。そしてこの 23 篇の結びはこうです。

23:6 まことに、私のいのちの日の限り、いつくしみと恵みとが、私を追って来るでしょう。私も、いつまでも、主の家に住まいましょう。

いつまでも、永遠に主の家に住まわせること、これが神様のご計画、神の国、御国です。五千人の男たちは青草の上に座りましたが、この「座る」と訳されているヘブル語はヤーシャヴ(יָשַׁב)と言い、「住む、住まわせる」という意味の言葉です。このようにイエシュアは神の国に「住まわせる」ことを「座る」ことにたとえて語られていると考えられます。このようなメッセージは、ヘブル語でなければ理解することも受け取ることもできません。

7. 五千人

次になぜ 5000 人なのか、これについても考えてみたいと思います。まず単純な解釈としては、5 と 1000 に分けて考える方法です。先ほどの 5 つのパンがモーセ五書、すなわち律法を示していると述べました。だとするならば同じ文脈的にこの 5 も同様に考えるべきだと思われる。このモーセ五書、律法によって統治される国民、それがイスラエル、ユダヤ人です。つまりこの 5 という数は、神の国がイスラエルを中心とした統一国家であることを示していると考えられます。そして 1000 は御国の通称「千年王国」を指し示していると考えられます。モーセ五書がイエシュアについての証言であることは述べました。ですからこの「五千人」の 5000 は「イエシュアを王とし、イスラエルによって統一される千年王国」を指し示していると考えられます。

そして 5000 についてのもう一つの解釈は、先ほど述べたようにこの五千人の給食の奇蹟は、マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの福音書すべてに記されている唯一の奇蹟ですが、この五千人についてマルコとルカはこのように記しています。

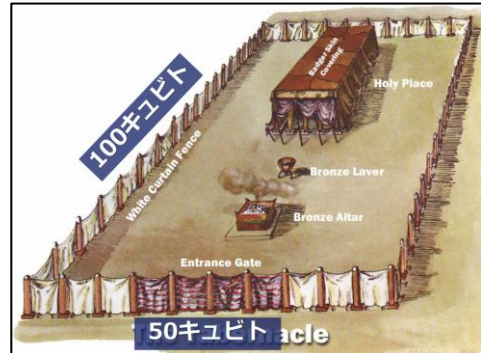
マルコ

6:40 そこで人々は、百人、五十人と固まって席に着いた。

ルカ

9:14 …イエスは、弟子たちに言われた。「人々を、五十人ぐらいずつ組にしてすわらせなさい。」

100人と50人、100と50はモーセの幕屋の大きさを表す寸法です。モーセの幕屋は縦の長さ100キュビト、横幅が50キュビトという大きさでした。縦×横=広さ(面積)という数学的観点から $100 \times 50 = 5000$ となり、この五千人は、モーセの幕屋を示しているとも考えられます。



8. イエシュアによって

6:11 そこで、イエスはパンを取り、感謝をささげてから、すわっている人々に分けてやられた。また、小さい魚も同じようにして、彼らにほしだけ分けられた。

五つのパンがイエシュアによって分け与えられていっています。人々が勝手に取っていったものではありません。五つのパンが示すモーセ五書、すなわち律法は、イエシュアによって、イエシュアを通して受け取らなければ理解できないことが示されています。「モーセが書いたのはわたしのことだからです (5:46)」ということです。そして二匹の魚、すなわち御父と御子の証言も「同じようにして」つまりイエシュアによってイエシュアを通して与えられます。イエシュアを通して御父、父なる神様を知るのです。それが与えられる人とは「すわっている」人々、ヤーシャヴ、御国に「住まう」人々にのみ与えられます。

6:12 そして、彼らが十分食べたとき、弟子たちに言われた。「余ったパン切れを、一つもむだに捨てないように集めなさい。」

6:13 彼らは集めてみた。すると、大麦のパン五つから出て来たパン切れを、人々が食べたうえ、なお余ったもので十二のかごがいっぱいになった。

余ったパン、つまり「残りもの」です。イエシュアはこの残りものを12のかごに集めさせました。12のかごはヤコブの12人の息子たち、イスラエルの12部族を指し示していると考えられます。ミカ書2:12にこのような預言があります。

ミカ

2:12 ヤコブよ、わたしはあなたをことごとく必ず集める。わたしはイスラエルの残りの者を必ず集める。わたしは彼らを、おりの中の羊のように、牧場の中の群れのように一つに集める。こうして人々のざわめきが起ころう。

イエシュアが王となって建て上げる神の国、千年王国とは、イスラエルを中心とした統一国家です。ですからイスラエル、ユダヤ人が集められることと御国の実現は同じ意味を持つのです。そしてそれは人の手によって

ではなく、イエシュアによって「集められ」、成し遂げられるのです。

6:14 人々は、イエスのなさったしるしを見て、「まことに、この方こそ、世に来られるはずの預言者だ」と言った。

6:15 そこで、イエスは、人々が自分を王とするために、むりやりに連れて行こうとしているのを知って、ただひとり、また山に退かれた。

御国の到来、完成は人間の思いや意志によるのではなく、神様の一方的なご計画によるものです。これに対して邪魔建てることはもちろんのこと、口をはさんだり、無理矢理時を早めたりすることはできません。まさに口出し無用、手出し無用のご計画なのです。ただ私たちはそれを知り、それを信じ、それを求め、そして受け取ることだけが許されています。

9. 四千人の給食

このように、6章からの「五千人の給食」の奇蹟を、5章からの「イエシュアについての証言」との関連づけで捉えることによって、その解釈を試みてみました。先ほど述べたように、聖書は決して多くのメッセージを語ってはいません。同じ内容のものを言い換えたり、たとえたり、別の視点から捉えたりしていることの方が多く感じられます。たとえばこの「五千人の給食」に酷似した「四千人の給食」という奇蹟があります。

マタイ

15:33 そこで弟子たちは言った。「このへんぴな所で、こんなに大ぜいの人に、十分食べさせるほどたくさんのパンが、どこから手に入るでしょう。」

15:34 すると、イエスは彼らに言われた。「どれぐらいパンがありますか。」彼らは言った。「七つです。それに、小さい魚が少しあります。」

15:35 すると、イエスは群衆に、地面にすわるように命じられた。

15:36 それから、七つのパンと魚とを取り、感謝をささげてからそれを裂き、弟子たちに与えられた。そして、弟子たちは群衆に配った。

15:37 人々はみな、食べて満腹した。そして、パン切れの余りを取り集めると、七つのかごにいっぱいあった。

15:38 食べた者は、女と子どもを除いて、男**四千人**であった。



この奇蹟を「五千人の給食」と同じ要領で解釈するならばこのように言うことができます。

4000 を 4 と 1000 に分けて考え、4 は 4 つの書、イエシュアとそして弟子たちについて

書かれたマタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの四福音書と解釈します。1000 は千年王国ですから、この 4000 の意味も「イエシュアを王とする千年王国」を指し示していると考えられます。そして七つのパンはキリストの肉体、身体である「教会」を指し示しています。黙示録において教会を示す数は「七つ」です。そしてここでもパン切れが「集められ」ていますが、これは空中再臨を示していると考えられます。つまり「五千人の給食」は旧約的、ユダヤ的視点で千年王国を捉え、一方この「四千人の給食」は新約的、教会の視点で千年王国を捉えていると考えられ、どちらも同じものを違う側面から指し示していると考えられます。この二つの観点が一

つになるのがイエシュアの語っておられる神の国、千年王国です。

聖書のメッセージは多くはないと述べましたが、このように解釈していくならば、導き出される答えはおそらく一つになります。そしてそれはすべて神様のご計画の完成である「神の国、御国」に繋がっています。